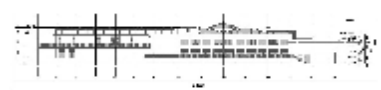


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 榎尾学園整備事業	階数	地上2F
建設地	大阪府和泉市	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	530 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,840 時間/年(想定値)
建物用途	学校,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2022年7月15日
敷地面積	20,602 m <sup>2</sup>	作成者	深尾元詞
建築面積	5,350 m <sup>2</sup>	確認日	2022年7月15日
延床面積	8,717 m <sup>2</sup>	確認者	深尾元詞



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	室内環境についてはブラインドと庇を設けることで屋光の制御を行う、他に防汚性の高い建材を使用することで配慮している。 室外環境については適切な量の駐車場と駐輪場を設けていることで配慮している。	その他
Q1 室内環境	ブラインドと庇を設けることで屋光の制御を行っている	Q3 室外環境(敷地内) 植栽条件に応じた適切な緑地を設けている
LR1 エネルギー	設備の高効率化を図る	LR3 敷地外環境 適切な量の駐車場と駐輪場を設けている
	Q2 サービス性能 防汚性の高い建材を使用している	
	LR2 資源・マテリアル 1F職員室にフリーアクセスフロアに採用している	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R4-0053

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)榎尾学園整備事業					
	建設地	大阪府和泉市					
	用途/区分	学校(小中高) 集会所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B-	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					3	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

## エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.5	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	1.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.4	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

## その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		